

# 関東地震の履歴の再評価

宍倉正展（産業技術総合研究所）

## ポイント

- 元禄型関東地震の再評価
  - 従来：7,200年前, 5,000年前, 3,000年前に発生（平均2300年間隔）
  - 再評価：5,700年前, 3,200年前, 2,000年前に発生（発生間隔は1200~2500年でばらつく）。毎回の隆起パターンと規模はほぼ同じことを確認。
- 歴史上の関東地震と多様性の評価
  - 1293年正応（永仁）地震は津波、隆起ともに地質痕跡あり、国府津-松田断層帯も同時に活動した可能性。
  - 878年元慶地震は候補となる隆起痕跡があるも不明な点多い。
  - 15世紀（1433永享, 1495明応）の地震は候補となる津波痕跡あり、ただし隆起痕跡は未確認。伊東で同時期に隆起痕跡があるがマグマ活動を示す可能性。
  - 1703年元禄地震は相模湾西側にはあまり影響していない可能性。

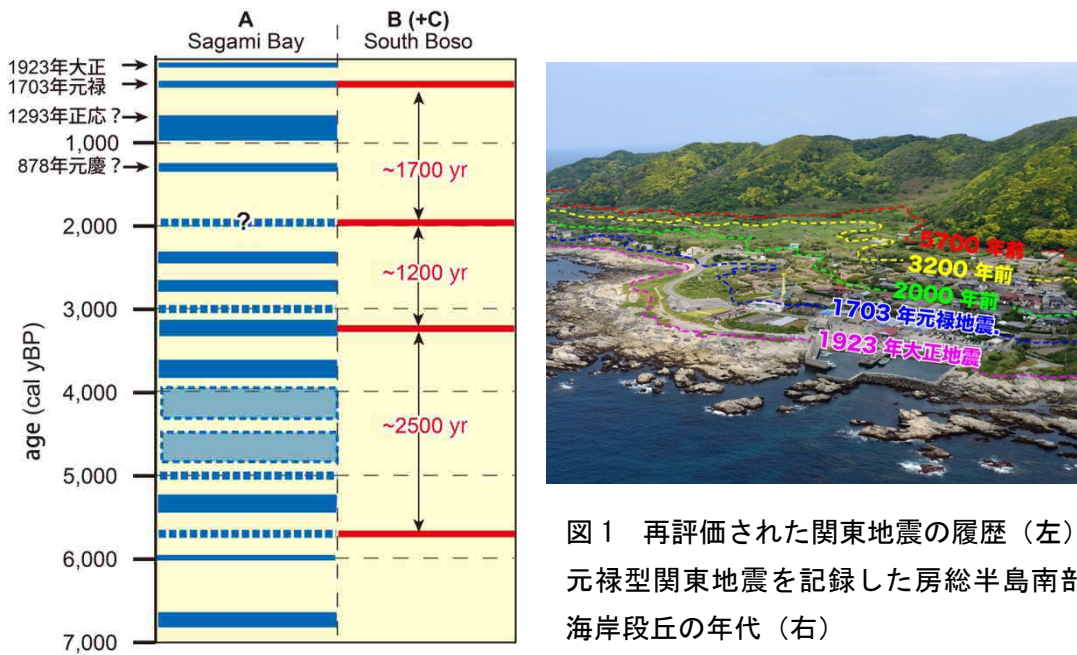


図1 再評価された関東地震の履歴（左）と元禄型関東地震を記録した房総半島南部の海岸段丘の年代（右）

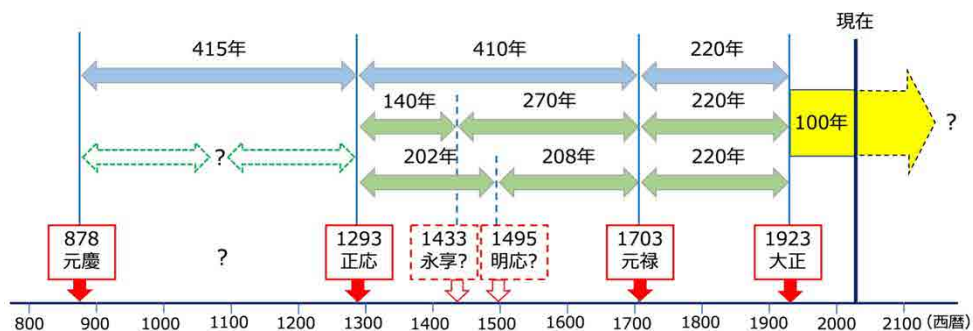


図2 歴史上の関東地震（候補を含む）の時系列と発生間隔